

(試験時間 60分)

2021年度 一般選抜

## 国語総合

受験番号	
氏名	

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 問題冊子は19ページ、解答用紙は1枚です。
3. 用紙の落丁や印刷ミス等に気付いた場合は、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の箇所に記入してください。なお、解答は必ず鉛筆又はシャープペンシルで記入してください。
5. 下敷の使用は認めません。
6. 試験開始後は退場できません。
7. 解答用紙は書き損じても再交付はしません。
8. 解答の下書き等は、問題冊子の余白を利用してください。
9. 気分が悪くなった時、質問がある場合は、手をあげて監督者に知らせてください。
10. 受付票は机の番号札の隣に置いてください。
11. スマートフォン、携帯電話及びウェアラブル端末等の電子機器は、電源を切り、カバンの中にしまってください。
12. 問題冊子は解答用紙とともに回収します。

## 国語総合

□ 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

私は大学に入ってすぐ①アクタガワリユウノスケの発言に②触発されて『今昔物語集』を拾い読みしました。ゴツゴツした文章で読みにくいのですが、不思議な味わいがありました。古典とは思えないほど、身近に感じられたのです。見栄も③体裁もかなぐり捨てて、どうしたら生きられるかといった、ぎりぎりのところで精一杯知恵を絞り、持てる力を最大限に發揮して生きてゆく人間たちの話には私はこの上なく共感を覚えたのです。

その後、私は、④『今昔物語集』の魅力と言葉の面から探っていく試みをいくつか実行しました。たとえば、『今昔物語集』は、「がさ」「いそそそ」「わぶりわぶり」などの⑤擬音語の宝庫。それらの語は、どんなふうに使われ方をしているのか？調べてみると、サスペンス映画の効果音のように、擬音語を使っている場合が多い。⑥例を挙げてみます。人っ子一人いない真夜中、一人の男が馬に乗って川を渡っている。赤ん坊のお化けが出ると言われている川だ。川の中ほどまで来た時、いきなり赤ん坊の泣き声が闇をつんざく。「いがいが」「いがいが」は、現在の「おぎやおぎや」に⑦該当する擬音語。赤ん坊の泣き声は、不思議に恐い。生命の根源を揺さぶるような不気味さがある。『今昔物語集』は、事件の山場で擬音語「いがいが」を用い、最大限の効果を狙っているのです。

《 あ 》 真夜中にある男が急用で人を呼びに行かなくてはならなくなった。おびえながら、道を歩いていると、「かか」というけたたましい声が夜空に響き渡る。登場人物も読者もビクッとしてしまう場面に擬音語を使っている。また、男が一人、あばら家に泊まっている。恐くて緊張して怯えている時、小さな小さな物音がする。「こほろ」。今なら「こつ」「ことり」「こほろ」が効いていますね。まさ

にサスペンス映画の効果音さながらの擬音語の使い方です。

こんなふうには、『今昔物語集』は、言葉の使い方が見かけによらず、③巧者！ ④ここでは、落差のある言葉を使って効果をあげている例を紹介しましょう。とり上げるのは、巻二八第一話「近衛こんゑの舎人とねりども稲荷いなりに詣まうで、重方しげかた、女をむなに値あふこと」です。

A

「今は昔（＝今となつては昔の事になつてしまつたけれど）」と、全ての話がこう始められるので、『今昔物語集』ということは、すでにご存じでしょう。二月初午の日、重方という男が同僚の舎人たち五人と、京都の伏見稲荷社にお参りにやつてきた。なあに、真面目にお参りするわけではない。なにしろ、この日は京都中の男や女がこぞつてやつてくるので、いい女にめぐりあうチャンスなのだ。とりわけ重方は浮気者だから、期待に胸を⑤膨はららませてやつてきた。

伏見稲荷は、私も行った事がありますが、稲荷山全体を包み込む壮大な神社。昔は、山のふもとの下社から、山を登つて中社、そして頂の上社まで順々にお参りしていった。今は、立派な④楼門、本殿が建てられており、下社・中社・上社の区別が定かではないですね。

さて、重方一行は、中社の近くまでやつてきた。上る人・下る人が行き⑤交まつっている。その中ですばらしくきれいに着飾った女が降りてくる。女は、濃い紫のつやつやした上着に、紅梅色や萌黄色の着物を重ねて着て、なんともなまめかしい。男たちは色めきたつて、その女にふざけたことを言いかけたり、下から女の顔を覗き込むような⑥仕草しざうをしながら通り過ぎる。女は市女笠いちめがさをかぶっているの、顔が見えないのだ。

A

重方は、早速この女に目を付けた。同僚を先にやって、自分は女のそばに寄り、体をすり寄せて盛んにくどく。すると、女は言う、「人持給もちたまへらむ人の行摺ゆきすりの打付心うちつけこころに宣のたまはむ事、聞かむこそ可笑をかけれ（＝奥様をきつとお持ちの方が、行きずりの浮気心でおっしゃることなど、真面目に聞く人なんかいませんわ）。愛嬌たつぷりの声。「持ち給ふ」「宣ふ」と、きちんと敬語を使って返事をしているから、なかなか教養もある。重方はたちまちにのぼせ上がって言うではないか。「そりやあなた、つまらない女房はいることはいますが、そいつのつらは猿そっくりで、心は物売り女同然のやつですから、別れようと思うんですが、㊦さしあたって㊧縫ぬいひを縫う者がいないのも都合が悪く、もし気に入った人に出会ったら、そちらに乗り替えようと心底思っていたので、こう申し上げるのです」。浮気な男の㊨面おもて目め躍如よくのセリフ。女の気を引くには、妻の悪口を言うのが一番効き目があることを心得ています。

すると、女は、重方に確認する、「此こは実言まことごとを宣まふか、戯言たはぶれごとを宣まふか（＝それはホントのことをおっしゃっているのですか？ ご冗談をおっしゃっているのですか？）。女は、敬語を使って上品に聞いている。重方は、真実だと言い切り、すかさず女に独身かどうか、住まいはどこかを尋ねる。女は、連れ合いをなくし、今は独身。伏見稲荷には良縁祈願にやってきたのだと言う。重方の胸は高鳴る。続けて女は言う、「ほんとに私に好意を持つてくださるなら、私の住まいをお教えしましょう」。㊩誘いざなう水みづあらばの風情ふうじやう。男もその気になりかかる。

だが、女は、ふと我に返ったかのように言葉を続けた、「いえいえ、行きずりの人のおっしゃることを真に受けるなんて、バカですわ。早くいらしてください。あたしも失礼します」。女は、愛嬌溢れる様子でこう言って、男の㊪傍そばから離れて行こうとする。男はあわてて、手を摺り合わせて額にあてて、女の胸もとに自分のかぶっている烏帽子をあてて言う、「神様、助けてください」。男は女をひきとめるべく、「このままお宅へ伺って、家には二度と足を踏み入れますまい」と言って、頭を垂れて拝み入る。

その時、女は烏帽子の上から男の髻をむんずとつかんで、「山響くばかり」に平手打ちを食わした。重方はびっくりして女の顔を仰ぎ見ると、「早う我が妻の奴の謀りたるなりけり（＝なんと、自分の妻がだましていたのではないか！）。「けり」は、気づきの意味の助動詞ですが、効いていますね。その時、初めて妻であったことに気づいたのです。重方は浮気の現行犯で、まんまと妻に取り押さえられた。

重方は開いた口がふさがらない。「そ、そなたは気でも狂ったのか」と言うのがやっと。妻は、行き来の人もかまわずわめきだした。「己れは、何で此く後目た無き心は仕ふぞ（＝あんたはどうしてこんな恥知らずのことをするの！）。「お友達の方々が「あなたのご亭主は油断ならぬ奴ですぞ」と来るたびに教えてくれたけれど、なあに、私に焼餅を焼かせるために言うのだろうと思って信じなかったのに、本当のことを教えてくれていたんだ」。「己れ云つる様に、今日より我が許に來たらば、此の御社の御箭目負ひなむ物ぞ。何で此くは云ふぞ。しゃ頼打ち欠きて、行來の人に見せて咲はせむと思ふぞ。己れよ（＝あんた、いま言ったように、今日からは私のところに來ようものなら、このお社の神罰で矢傷を受けることになるんだからね。どうして、あんなことを言うの！ その横つつらをぶっ欠いて行き來の人に見せて笑わせたいよ。あんたはもう！）」。

腹立ち紛れの、ののしり語を使ってわめきたてる。「己れ」も、「しゃ頼」も、「打ち欠く」も、すさまじい卑しめ語。「己れ」は、「あんた」と訳しておいたけれど、「おまえ」に近い語感をもつもののしり語。『今昔物語集』では、妻は夫のことを「汝」「主」「其」などと呼ぶのが普通です。

問一 線部①～⑥の漢字について、読み方を平仮名で書きなさい。

問二 線部①～⑥の漢字と同じ漢字を使用する熟語は、それぞれア～オのどれか。該当するものを一つ選び、記号で答えなさい。

- |        |   |     |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|--------|---|-----|---|----|----|----|---|---|---|----|---|----|----|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 擬音   | ア | ケンギ | イ | ギ  | シン | アン | キ | ウ | ギ | モン | エ | ギ  | ジン | ホ | ウ | オ  | サ | ギ |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ② 該当   | ア | ト   | ウ | ガイ | イ  | ガイ | ヨ | ウ | ソ | ガイ | エ | ガイ | コ  | ウ | オ | ガイ | ロ | ン |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ③ 膨らませ | ア | ケン  | ボ | ウ  | イ  | ト  | ウ | ボ | ウ | ポ  | ウ | キ  | ョ  | エ | ボ | ウ  | マ | ン |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ④ 綻び   | ア | ハ   | タ | ン  | イ  | セ  | ジ | ヨ | ウ | ザ  | イ | エ  | セ  | ツ | テ | イ  | オ | ジ | ヨ | ウ | チ | ョ | ウ |   |   |   |
| ⑤ 傍    | ア | ロ   | ボ | ウ  | イ  | ヒ  | ョ | ウ | ボ | ウ  | ウ | チ  | ユ  | ウ | ボ | ウ  | エ | ヒ | ボ | ウ | オ | キ | ョ | ウ | ボ | ウ |

問三 傍線部①「アクタガワリユウノスケ」について、(1)カタカナを漢字に直して書きなさい。(2)彼の著作を次の選択肢から選び、漢字、あるいは漢字かな混じりにして、答えなさい。

〔 選択肢 〕

ヒガンスギマデ ・ サンシヨウウオ ・ ウタカタノキ ・ ラシヨウモン ・ アンヤコウロ

問四 傍線部②『今昔物語集』の魅力を言葉の面から探っていく」とあるが、その「魅力」を簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部①「例を挙げてみます。」とあるが、例はいくつ挙がっているか。数を書きなさい。

問六 ≪ あ ≫に当てはまる語を、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア いわゆる イ ところが ウ むしろ エ あるいは オ もちろん

問七 傍線部②「ここ」と、同じ意味のものはどれか。適当だと思われるものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話し手が「これ」と指せるような範囲の場所。

イ 話し手や周囲の人が現に置かれている状況や程度、または局面をさす。

ウ 現在を中心としてその前後を含めた期間をさす。

エ 話し手がへりくだって言う。

オ 話し手の近くににいる人を、軽い敬意をこめて言う。

問八 

A
---

 から 

//A
-----

 までの文章に小見出しをつけるとすると、どのようなものになるか。最も適当だと思われるものを

次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 『今昔物語集』の本文紹介    イ 『今昔物語集』の特徴    ウ 重方、女に値ふこと    エ 伏見稻荷の境内で

問九 傍線部㊦「さしあたって」という言葉を、意味を変えずに別の似たような表現で書きあらわしなさい。

問十 傍線部㊧「面目躍如」について、次の問いに答えなさい。

(1) 読みを平仮名で書きなさい。

(2) 似たような意味の四字熟語を次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 換骨奪胎    イ 粉骨碎身    ウ 本領発揮    エ 東奔西走    オ 百戦錬磨

(3) この四字熟語を使用した例文を、一文で書きなさい。

問十一 傍線部㊨「誘う水あらばの風情。」とあるが、この本文の文脈ではどのような意味か。空欄㊩ a ㊪ にふさわしい語句を

入れ、説明文を完成させなさい。

根なしの浮き草の根が切れて、誘う水があればそちらの方向へ行くように、頼りになる人がいれば、  
㊩ a ㊪、という雰囲気だと  
いうこと。

問十二 文中の夫婦のやり取りを例に挙げることによって、筆者は読者に何を示したかったのか。簡潔に説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

その後日本人は、①この小さな持ち物に驚くほど、いろいろな役割を託した。本来は熱帯に生まれた風を送る道具だったのに。似た形の物に翳さしほといつて偉い人にさしかける団扇ふうな長日傘があるから、その役目が重なつたとしても、扇あおぐか隠すしか役割がなかつた扇子に、背負い切れないくらいの特別な意味を持たせてしまったのだから、この精神性は只物ではない。

この、付託した役目とは何か。

例の桧扇はどンドン装飾性を高めて、①コウカコウカな彩色が施されたり、花鳥や風景が描かれたり、長い総ふさを垂らしたり、要かなめに小細工をかぶせたりして、高貴な宮廷人のステイタスシンボルにした。

冬扇となつてからは、②本来の役目すら失わせたのである。

一方、のちに発達した紙張り扇子、かわほりとよばれるものは反対に夏扇とされ、のちに、③ショミンショミンの日常の持ち物となつた。

有名な話が『枕草子』（二〇六段）にあつて、見たこともない上等な骨が手に入ったので、それに見合う紙を探して中宮定子に献上したいと定子の弟の藤原隆家がいうと、清少納言が「見たことがない骨とはくらげの骨ですか」と④茶々茶々を入れたとか。

桧扇が常であつてこそ、中宮がもつかわほりは、これほど上等でなければならなかつた。⑤扇あおとかわほりとが身分証明を分担したのだつた。

しかし、これではかわほりも立つ瀬がない。そこでかわほりは、団扇とステイタスを争つて、優位に立つた。われわれの感覚でもちよつと改まつた時には扇子をもち、日常生活では団扇を使う。⑥ハレとケハレとケとに、役割が分かれたといつてもよい。

羽織袴には扇子が似合うが、夕涼みの③ユカタには団扇しか使えない。だれが決めたのでもないのに、そんな区別ができた。仕方がない、団扇は先に述べた柄を漆塗りにしたり、扇面を棗型なつめにしたりして優雅さを出そうとする。柄に絵をつけるのも、そのひとつである。

またかわほり自体にも、畳んだ姿の微妙な印象の違いを出そうとした。

まず能などに使われる、先が半ば啓ひらいた扇子を作った。「中啓ちゅうけい」という。婆娑羅ばさらタイプの扇子は芸能向きだろう。

反対に、われわれが使う一般的な扇子は逆に先が細く作られている。きちつと整った感じが礼儀正しい印象をあたえる。これはその名もゆかしい「鎮折しずめおり」。

第三に先が④オオギョウに啓きもせず⑤鎮めもせず、そのまま自然にぽーっと開いている扇子は「雪洞ほんぼり」だとか。

日本人は、扇の種類や形にこんな心象を託しながら、さらに、さまざまな機能をもたせた。

日本人は手渡しを嫌う。「手盆」ということばがあるくらいで、本来盆で受け渡しするはずのところ盆がないと「手盆で失礼します」というほどだ。ところが一方、突然何かを受け取るようになった時、さつと懐から扇子を出して載せて頂く人を見かけて感動したことがある。

さし出す人があらかじめ扇子に物を載せてくれる場合もある。扇子は礼儀正しさを發揮する働きをもつようになった。

かと思うと落語家はじつに巧みに扇子を小道具として、話をリアルにする。箸になったり、きせるになったり。

また武将は鉄扇を作って携帯した。それが大活躍をして川中島の⑤イツキ打ちも盛り上がることとなる。

日本人は小さな扇子に大きな意味を持たせたのである。

扇子がこれほどに愛されてきた理由は、以上のような小用に役立つところにもあったが、さらに大事なことに、日本人は扇子の絵を重視

した。扇面画という独特の分野も誕生した。

《 中略 》

何しろ扇面画は、扇子を広げるにしたがって現われる特性をもつ。この構造自体が動画仕立てなのだ。

しかも折り目折り目の凹凸は、波のように画面に抑揚をつける。魚を描けば魚は泳ぐだろう。連山を描けば、山並みは重畳としてつづくだろう。

また扇は飾り物でない限り、ぱたぱたとあおがれる。絵はその度に動画を見せつづける。隣の人をあおいであげている姿はゆかしい。その時隣の人はこちららと画を見ながら動画を共有する。

⑧画面に人物がいれば、彼らは動作をしつづけ、物を言いつづけるはずである。凹凸の波があることは屏風画も同じだが、動画をのせるキャンバスは扇子、団扇のほかにはない。

そしてまた、この美しい扇形自体が模様として採用されることも、おびたしい。その時には、どれほどに扇子を開くかによって、扇子の姿はさまざまである。全開、八分開き、三分開き、そして全開。さらに複数の扇子を組み合わせることによっても、デザインは多様になる。

日本人はまるで、扇子が風を送る道具であることはそっち退けにして、ひたすら扇面画に凝り、姿が示す美しさをデザインしつづけてやまない。のみならず桧扇を無用のはずの冬扇という装飾品に仕立てあげた。

「わたしの俳諧は⑨夏炉冬扇のようだ」といった俳人・⑩マツオバシヨウもじつはこのような静止した美しい冬扇を知っていたのだとわ

たしは思っている。

(中西進『情に生きる日本人』より)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部⑥「この小さな持ち物」とは何を指すか、答えなさい。

問三 傍線部⑦「本来の役目」とあるが、それは何か。

問四 傍線部⑧「茶々を入れた」という文中の表現と、最も近い意味のものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア ごまかした    イ 知識をひけらかした    ウ 間違えてしまった    エ 訂正した    オ からかった

問五 傍線部⑨「扇とかわほりとは身分証明を分担したのだった。」とは、具体的にどのようなことか。最も適当だと思われるものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 桧扇はどんどん装飾性を高めていき、かわほりは簡素なデザインになっていった。

イ 桧扇は高貴な宮廷人のステイタスシンボルになり、中宮の所持品としてふさわしくなくなった。

ウ 桧扇は冬扇、かわほりは夏扇と、役割が分担された。

エ 桧扇はかわほりに比べ、背負い切れないくらいの特別な精神性が付託されることになった。

オ 桧扇は豪華な宮廷人のもの、かわほりは庶民の日常の持ち物となった。

問六 傍線部㉔「ハレとケとに、役割が分かれた」とは、具体的にどういうことか。文中の表現を利用して書きなさい。

問七 傍線部㉕「鎮めもせず」の文中の意味と、最も近い意味のものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 膨らみもせず    イ 閉じもせず    ウ 和らげもせず    エ 礼儀正しくもなく    オ 芸能向きでもなく

問八 傍線部㉖「画面に人物がいれば、彼らは動作をしつづけ、物を言いつづけるはずである。」とあるが、それはなぜか。文中の表現を利用して書きなさい。

問九 傍線部㉗「夏炉冬扇」の用例としてふさわしいものはどれか。適当だと思われるものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 僕のはまた、夏炉冬扇で通用しないのさ。どうも困ったことだよ。

イ 彼はあまり驚かないたちで、夏炉冬扇たる風貌である。

ウ ライバル会社同士で争っている隙に、無名の会社が夏炉冬扇を得る結果となった。

エ 我が社にとって夏炉冬扇の大プロジェクトが始動する。

オ 夏炉冬扇の精神で、本日のお茶会も楽しんでください。

問十 傍線部①「マツオバショウ」について、次の問いに答えなさい。

(1) 漢字で書き表しなさい。

(2) 彼の作品でないものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 古池や蛙飛びこむ水の音

イ 閑さや岩にしみ入る蟬の声

ウ やれ打つな蠅が手をすり足をする

エ 五月雨をあつめて早し最上川

オ 旅に病んで夢は枯野をかけ廻る

三 次の各問に答えなさい。

問一 「威」を用いた熟語として不適切なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 威厳    イ 威問    ウ 脅威    エ 威儀    オ 威風

問二 ①～④の慣用句の、空欄に入る適当な語句を次のア～ケから一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 舌の（       ）の乾かぬうちに（意味∥前に言ったことを忘れもしないうちに違うことを言う）
- ② （       ）鳥跡を濁さず（意味∥去る者は、後が見苦しくないように始末をしてから去るべきである、という戒め）
- ③ （       ）が利く（意味∥物事を素早く見抜いて抜け目がないこと）
- ④ 取り付く（       ）がない（意味∥交渉を進める余地がない様子）
- ア 目端    イ 島       ウ 先       エ 飛ぶ    オ 目鼻    カ 根       ク 暇       ケ 立つ

問三 ①～⑤の文学作品の作者を、次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 『五重塔』    ② 『最後の一句』    ③ 『山椒魚』    ④ 『小僧の神様』    ⑤ 『古都』
- ア 幸田露伴    イ 志賀直哉    ウ 川端康成    エ 井伏鱒一    オ 森鷗外    カ 夏目漱石

問四 次の各文の   にあてはまる四字熟語を選択肢から選び、カタカナを漢字に直して、書きなさい。

- ① 試合は激しい点の取り合いで、途中経過の報告に  する。
- ② 母は自分の作った料理がおいしいと  していた。
- ③ 事件は全く  のまま、時間だけが無為に過ぎていった。

〔選択肢〕

- ・カンゼンムケツ
- ・シュシヤセンタク
- ・ジガジサン
- ・イツキイチユウ
- ・ゴリムチュウ
- ・ゼツタイゼツメイ